

山形森林管理署	
タイトル	低コスト作業システム検討会
実施年月日	平成25年10月30日(水)
実施場所	山形県山形市大字上東山外3 字戸沢山外6国有林 212林班外
参加者	局署：東北森林管理局、仙台森林管理署、山形森林管理署 15名 外部：村山総合支庁、山形市、(独)森林農地整備センター、 山形県森林組合連合会、山形地方森林組合、北村山森林組合、 西村山地方森林組合、(有)庄司林業、 大江町林研グループ：光林会 12名 計 27名
<p>【取組の概要】</p> <p>列状間伐及び路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの普及・定着を目的に現地検討会を開催した。</p> <p>当日は局からの講師陣による森林作業道作設に当たっての現地指導とともに、林業事業体からは日頃の事業実施を踏まえての意見や、林研グループの方から民有林との施業の違いを述べて頂くなど幅広い意見交換が行われた。</p>	
<p>【取組の成果】</p> <p>意見交換等を通じて、林業事業体の知識、技術、意欲の向上に資することができた。</p> <p>適切な伐開幅が確保できるよう路網作設時の先行伐倒の方法を改善できた。</p> <p>低コスト作業システムの向上のためには、PDCAサイクルに基づく改善を進めることが重要であるが、林業事業体に作業種毎の生産性を把握できる作業日報の記入を求めこの分析を行ったところ、この有効性が確認できた。</p>	
<p>【出された意見】</p> <p>作業道の作設において、先行伐倒が先行しすぎると現地の地形・地質条件に応じて開設される線形とズレが生じ伐開する必要が無い木まで伐ってしまう恐れがあり、路網作設と適切に連携をとって伐開を進めることの指摘があった。</p> <p>些細なことでも現地の作業で気づいたことは意見交換し、知見を積み重ねていくことが大切である。</p>	
<p>【今後の課題】</p> <p>生産性の向上のみならず、森林作業道作設指針などに基づく丁寧な施業、安全の確保を同時に達成する必要があることから、常日頃から監督員等による適切な指示、指導の徹底が必要であり、また継続的に現地検討会を開催していく必要がある。</p> <p>今回行った林業事業体の作業日報の提出・分析の方法を年間を通して引き続き進めることが必要である。</p>	

タイトル 低コスト作業システム検討会



署長による開会の挨拶



列状間伐



先行伐倒後の森林作業道作り



熱心にメモをとる参加者



森林作業道は適切に作られているか議論



計画保全部長による講評